

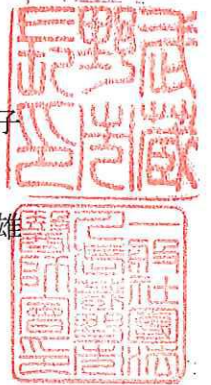
令和3年8月11日

東京都知事
小池 百合子 殿

新型コロナウイルスワクチンの適正な配分に関する要望書

武蔵野市長 松下 玲子

武蔵野市医師会会長 田原 順雄



平素より当市政に対し、格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、8月5日付で厚生労働省健康局健康課予防接種室から発出された事務連絡「ファイザー社ワクチン第13・第14・第15クールの配分等について」では、9月前半から10月前半（第13クールから第15クール）にかけて、各都道府県で12歳以上人口の8割に2回接種できるように必要な量を配分する前提で、第13クールの分配量及び第14・15クールの基本枠の分配量が決定されたところです。

ただ、この期間の東京都への分配量は、第13クールが716箱、第14クール及び第15クールの基本枠がそれぞれ708箱、690箱と、これまでの各クールでの配分数から比べ大きく減少されています。なお、国はこの分配の根拠として職域接種分を始めとした既配送ワクチンの考え方を示していますが、これについては、あくまで国が算出した仮定の数字であり、今後の実態に確実に即すものとは思えません。

また、国から東京都への配分数を受け、8月10日付で東京都から示された本市への9月前半（第13クール）の配分箱数は4箱です。東京都への分配量がこれまでと比べて大幅に減少しているとは言え、この配分数では、9月以降集団接種、個別接種ともに計画どおり進めていくことはできず、11月中に希望する方の接種を完了させることは、職域接種等が今後、大幅に伸びない限り、大変難しい状況になります。

本市では、7月からは個別接種を行う市内医療機関が80カ所を超え、集団接種についても、6月中旬から1日あたり最大1,700回以上の接種を実施するなど、安全かつ確実に前提としながら、接種スピードを加速させてきており、十分な量のファイザー社製ワクチンさえ供給されれば、速やかに市民接種を行う体制は構築できています。

なお、国はアストラゼネカ製ワクチンの供給を開始するとのことですが、原則 40 歳以上の方が対象であり、これを活用してもなお、39 歳以下の方の接種が取り残されてしまう懸念があります。

以上を踏まえ、下記事項について要望いたします。

記

- 1 国に対し、各都道府県への割当の考え方を見直し、特に緊急事態宣言が発出されている地域に重点的にファイザー社製ワクチンを多く配分するよう強く要望すること。
- 2 東京都が設置する大規模接種会場用で配分されるファイザー社製ワクチンを実績に応じて調整したうえで、ファイザー及びモデルナ社製ワクチンの支給実績が少ない自治体にできるだけ供給すること。
- 3 今後、アストラゼネカ製ワクチンが供給されても、原則 40 歳以上の方への接種となることを踏まえ、感染者の割合が増加している 39 歳以下の接種を確実に進めていくためにも、東京都が各市区町村のファイザー社製ワクチンの配分を行うにあたっては、人口割でファイザー、モデルナワクチンの供給実績の少ない自治体に優先的に配分決定をすること。
- 4 8 月 3 日に開催された区市町村連絡調整部会の中で、内閣府が 12 歳以上人口の 8 割に 2 回接種できるために必要な量として提示した市区町村別の必要数（武蔵野市の場合 16 箱）については、最低限保証するとともに、特にアストラゼネカ社製ワクチンでは接種できない、39 歳以下の方の接種を確実に進めていくために十分な量のワクチンを供給すること。
- 5 東京都が実施する大規模接種センターに関しては、近隣自治体の状況に応じて、可能な範囲で近隣住民の接種を受け入れること。